

JA長野厚生連 佐久総合病院佐久医療センター
がん相談支援センター 広報誌

こすもす

2023. 冬号

Vol.7

Contents

- 「近ごろのがん治療」
BRCA 遺伝学的検査の適用拡大
コンパニオン診断としての遺伝学的検査
- 佐久医療センターの活動紹介
AYA サポートチーム
緩和ケアリンクナース会
- インフォメーション



「近ごろのがん治療」

BRCA 遺伝学的検査の適用拡大 コンパニオン診断としての遺伝学的検査



佐久医療センター 遺伝看護専門看護師 中村 由唯

患者さん一人ひとりの体質や病気のタイプに適した治療法（オーダーメイド医療）や予防法（個別化予防）である「個別化医療」の推進が日本でされるようになって10年程度経過しました。中でも患者さんの遺伝/ゲノム情報を活用する遺伝/ゲノム医療の技術の発展は目覚ましいものです。

例えば、ある治療薬が患者さんに効果があるかどうか、治療の前にあらかじめ検査する「コンパニオン診断」はがんの治療においてより一般的になってきました。「コンパニオン診断」の一つに、PARP 阻害薬におけるBRCA 遺伝学的検査があります。この検査は私たち誰もがもっているBRCA 遺伝子に生まれつき病気の原因となるような変化があるかどうかを調べる遺伝子の検査です。BRCA 遺伝子に

変化があった場合、PARP 阻害薬という治療薬が使用できます。2018年に一定の条件下にある転移性又は再発乳がん患者の方に対して保険適用になったことを皮切りに、2019年には初発卵巣がん患者さんの初回化学療法後の再発予防として、2021年には、治癒切除不能な膵がん患者さんと転移性去勢抵抗性前立腺がん患者さんにも保険適用となりました。また最近では2022年8月に再発高リスクの乳がん患者さんの再発予防としての適用も拡大しました。

このように治療薬が使えるかどうかの判断にBRCA 遺伝学的検査は不可欠なものです。しかし、BRCA 遺伝学的検査で遺伝子の変化が認められた場合、同時に遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC/エイチビーオーシー、エイチボック）という生まれつき特定のがんになりやすい体質を持つことが明らかになります。HBOCと診断された場合、患者さんご自身は今治療しているがん以外の関連がんのリスクが上昇します。また同じ遺伝子の変化を血縁者が持つ場合があります。このような可能性を十分理解していただいた上で検査を受けていただくことが大切です。

佐久医療センターでは遺伝診療科という専門外来でBRCA 遺伝学的検査に対応し、患者さんやご家族の相談に乗っています。お困りのことがありましたら、お近くのスタッフにご相談下さい。

【コンパニオン診断としてのBRCA 遺伝学的検査の対象】

- ① HER2 陰性の転移性、再発乳癌患者
- ② HER2 陰性の術後薬物療法の適応となる乳癌患者
- ③ 初発の進行卵巣癌患者
- ④ 治癒切除不能な膵癌患者
- ⑤ 転移性去勢抵抗性前立腺癌患者

【コンパニオン診断の流れ】



特定の薬剤が対応する
遺伝子変異をコンパニオン
診断薬で検査



特定の薬剤に対応した遺伝子変異あり

特定の薬剤の
使用を検討



特定の薬剤に対応した遺伝子変異なし

他の治療法を
検討

国立がん情報センター
がん情報サービス

ganjoho.jp



国立がん研究センター、がん情報サービスの「がんゲノム医療とがん遺伝子検査」も参考にして下さい。

佐久医療センターの取り組みの紹介

「AYAサポートチーム」

がん相談支援センター 緩和ケア認定看護師 井出 康恵

思春期・若年成人（Adolescent and Young Adult : AYA）世代は、がんの罹患及び死亡率が最も低い世代であり、がん対策においてこれまで取り込まれない対象でした。しかし、この世代のがんは、多様ながん腫のため多診療科が関わるものの、希少なため治療が未確立であったり、AYA世代が抱える特有の課題への対応が不十分など、適切な医療や支援が提供できていない可能性があります。そこで、2018年「第3期がん対策推進基本計画」において初めてAYA世代のがん対策が明記されました。その翌年2019年より、佐久医療センターではAYA世代サポートワーキンググループを立ち上げ、月1回会議をもち、情報共有や事例検討など行なってきました。そして、2022年12月、院内の組織の委員会として立ち上げ、医師（腫瘍内科・乳腺外科・婦人科）、薬剤師、看護師（病棟看護師・がん関連の認定看護師）、ソーシャルワーカー、事務局と活動を開始しました。AYA世代がん患者が来院した際には、AYAスクリーニングシートを用いて患者さんの困りごとを把握し、対応しています。その相談窓口として「がん相談支援センター」があり、院内外の専門家につなげています。自施設単独では、AYA世代がん患者さんの支援に対するリソースが限られ、生殖医療、教育機関、就労支援団体、在宅医療、ピアサポートなど外部機関との連携も必要となっており、地域のネットサークルの構築も今後の課題となっています。



知ろう、一緒に。
AYA世代の「がん」の今と「つながる」1週間。
2023.01.04(SAT) - 03.12(SUN)

私たち
AYAサポートチームは
AYA世代がん患者さんを
応援しています！



AYA 世代患者応援フラッグ

「緩和ケアリンクナース会」

緩和ケアチーム がん性疼痛看護認定看護師 大塚 菜美

当院の緩和ケアリンクナース会の紹介の前に・・・(^_^)/
緩和ケアって??

「緩和ケア」というと、終末期の医療とか最後のケアというイメージが強いかもしれませんが、それは違います。「緩和ケア」とは苦痛をとり、その人らしい生活を送ることができるようにすることをお手伝いするケアのことです。したがって、病気の進行の程度とは関係なく、苦痛な症状（体のつらさ、気持ちのつらさなど）があれば行われるケアです。

緩和ケアリンクナース会の紹介

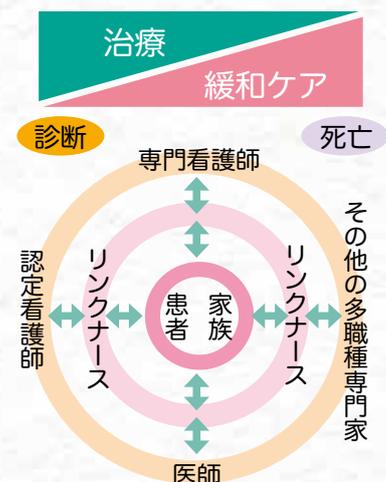
がんと診断されたときから質の高い緩和ケアを提供できるよう、緩和ケアを必要としている患者さんの苦痛を診断時からいち早く見出し、専門的緩和ケアへとつなげていくことができる実践能力の向上を目指し活動しています

<今年度の取り組み>



学習会の風景

リンクナース会は、月に1回開催しています。より良いケアの実践につなげていくことができるよう症例検討を行ったり、患者さんやご家族の苦痛を理解し、ケアに活かしていくことができるように、痛みやその他の苦痛症状、AYA世代（15～30歳代）がん患者さんのケア、エンゼルケアなどの学習会も行っています。これからも、患者さんやご家族のケアにつなげていくことができるよう活動を頑張っていきます!(^^)!



【リンクナースのイメージ】

～インフォメーション～

● Zoom開催

「佐久がん基礎講座」医療従事者対象 参加費無料
先着1000名

2023年度からの「佐久がん基礎講座」は6月から偶数月に開催します。
詳しくはホームページで確認してください。

お申し込みはQRコードを読み込むか、<https://ux.nu/225TY> より
お申込みください

お問い合わせ：E-mail gan-kyo10@sakuhp.or.jp 事務局 篠原・高見澤

・2023年 3月 8日(水)

終了いたしました

「緩和ケア」

講師：佐久医療センター 緩和ケア内科医長 山本 亮 先生

● 「市民公開講座」予約制

終了いたしました

・2023年2月25日(土)

「ロボット支援下手術」

講師：聖路加国際病院 服部 一紀 先生

佐久医療センター 泌尿器科部長 中山 剛 先生



がんサロン「もくらん」

新型コロナウイルス感染症の感染対策のため、対面でのがんサロン「もくらん」の開催を当面中止としておりましたが、この度、オンラインでのがんサロン「もくらん」を開催します。当面は、参加人数を限らせていただき、予約制といたします。お問い合わせは「がん相談支援センター」(直通 0267-88-7184) まで連絡をいただくか、ホームページでご確認ください。



就労相談会

～治療と仕事の両立に関する様々な困りごと～

相談無料
要予約

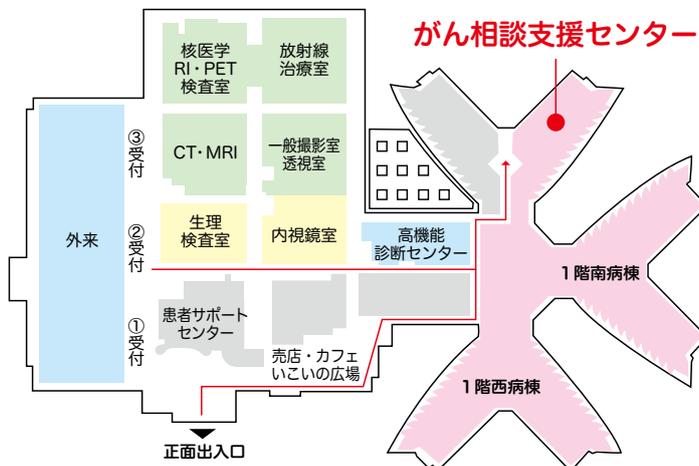
社会保険労務士による
相談会

ハローワーク長野による
就職相談会
オンラインでの相談も
承ります。

治療と仕事の両立
支援相談会

ご相談・お問い合わせはがん相談支援センターまで

佐久医療センター 1階平面図



編集後記

物価や電気料金、燃料価格の高騰など、より一層寒さを厳しく感じた今冬がようやく過ぎようとしています。新型コロナ対応についても、マスク着用緩和などの方針が示されました。インフルエンザ流行など医療機関ではまだまだ気を抜けない状況ではありますが、雪や氷もいつかは解けると希望をもちつつ、春の訪れを待ちたいと思います



JA長野厚生連 佐久総合病院佐久医療センター

がん相談支援センター

☎0267-88-7184